



第三回 朝読書が始まります

今年度最後の朝読書が始まります。今回の朝読書は2回にわけて行います。朝読書の短い時間で読みやすい短編集などを次号の図書だよりで、数多く紹介していきます。朝の貴重な10分間に読む本を準備しておきましょう。

期間 2月3日(月)～2月18日(火)

3月2日(月)～3月9日(月)

時間 8時20分～8時30分(10分間)

朝読書の4原則

- ①みんなで読もう！ ②毎日読もう！
- ③好きな本を読もう！ ④じっくり読もう！

※雑誌やマンガ以外、読みましょう。



「生きかたルールブック」 齋藤孝著

強くしなやかに人生を生きるために、今こどもたちに届けたい“生きるヒント”を、50の「生きかたルール」としてまとめました。シンプルだけどまっすぐに胸にとどくことばと、ユーモアあふれるイラストの組み合わせが楽しい1冊です。



1月15日、第162回芥川龍之介賞と直木三十五賞(いずれも日本文学振興会主催)の選考会が東京・築地の料亭「新喜楽」で開かれ、芥川賞は古川真人さん(31歳)の「背高泡立草(せいたかあわだちそう)」(「すばる」2019年10月号掲載)、直木賞は川越宗一さん(42歳)の『熱源』(文藝春秋)がそれぞれ選ばれた。

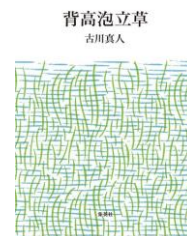
☆第162回芥川賞受賞作

「背高泡立草」 古川真人著



草は刈らねばならない。そこに埋もれているのは、納屋だけではないから。

記憶と歴史が結びついた、著者新境地。草に埋もれた納屋を見ながら奈美は、吉川の者たちと二つの家に流れた時間、これから流れるだろう時間を思うのだった。



☆第162回直木賞受賞作

「熱源」 川越宗一著

日本人にされそうになったアイヌと、ロシア人にされそうになったポーランド人。



文明を押し付けられ、それによってアイデンティティを揺るがされた経験を持つ二人が、樺太で出会い、自らが守り継ぎたいものの正体に辿り着く。





令和元年度 かるた大会

in 最上校

かるた大会 結果発表

昨年度同様、犬棒かるた（ことわざ）と日本昔話かるた（あらすじ）を取
入れて、シングルス・ダブルスとも、トーナメントで行いました。

1年生4人、2年生5人、3年生5人、合計14人と参加者は例年より少な
かったが、白熱した戦いも見ることができ、盛況に終わることができました。

ご参加ありがとうございました。

シングルの部

1位	2年	古瀬	泰斗
2位	3年	佐藤	駿
3位	3年	田中	幸也

ダブルスの部

1位	3年	佐藤	駿	3年	丹野	沙耶
2位	1年	井上	瑠奈	1年	佐藤	舞香
3位	3年	山口	あい	2年	古瀬	泰斗



《 感想 》

- 最初は緊張したけれども、楽しめたので良かった。
- かるた大会をきっかけに、国語の勉強を頑張ること
本も今まで以上に読もうと思います。
- 1回戦で負けましたが、楽しくフェアプレーで取組むことができた。
- 去年より参加者は少なかったが、本気で白熱し、楽しく取り組むことが
できた。来年も楽しく取り組めるように工夫し、参加者が増えるように
呼びかけていきたいです。
- 本気出しすぎて、手が痛かったけど、楽しく取組むことができた。
- シングルスは緊張しましたが、ダブルスではしっかりカードをとることが
できましたが、かるたは苦手で難しいと思いました。
- 「かるた」という、日本文化にふれることができ、良かったです。
- 皆、接戦で楽しみながらすることができ、良い思い出になりました。

来年も多数の参加お待ちしております。